



會津八一書「日章旗-けふよりは」(昭和18年 早稲田大學會津八一記念博物館蔵) ※けふよりは かへりなきて おほまみの しこのみたてと いでたつわれは(『万葉集』卷二十より)

# 戦争と八一



會津八一引率 早稲田大學藝術學專攻研修旅行(薬師寺西塔址-昭和18年11月13日)

平成23年7月3日[日]—9月4日[日]  
午前9時～午後5時

[休館日] 月曜日(祝日の場合はその翌日)

[観覧料] 一般500円・大学生300円・高校生200円・小中生100円

※団体20名以上2割引、土日祝日は小中学生無料

[主催] 公益財団法人 會津八一記念館

[協力企業] 浅川園、今成漬物店、大阪屋、里仙、高橋酒造(50音順)

[展示解説会] 第1、3日曜日(7月3、17日 8月7、21日、9月4日)

# 戦争と八一

平成23年度 企画展

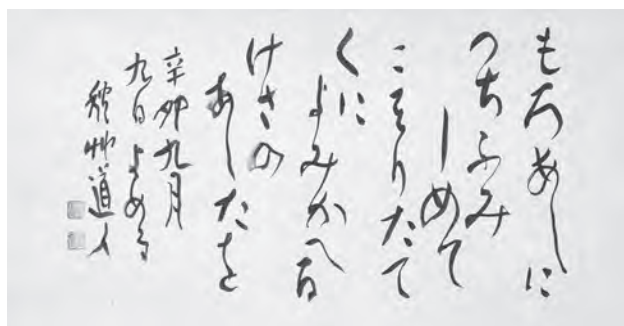
平成23年度夏の企画展は、「戦争」をテーマに、当時の會津八一の心情に迫る作品資料を展示いたします。本年は日米開戦70年の節目の年にあたり、八一が生きた時代とその芸術を再検証する企画です。

昨年は平城遷都1300年記念にあたり、八一と奈良の深いつながりがたびたび展覧会、メディアで紹介されました。その中で注目されたのが、テレビ番組でも特集された戦時中の八一の姿でした。大正15年から八一は早稲田大学で東洋美術を講じていますが、実習教育のため学生たちを毎年奈良に連れていきました。その研修旅行は開戦後も続きましたが、戦局も苛烈を極めた昭和18年11月が最後の旅行となりました。学徒出陣で次々と戦場へ送られていく教え子たちを、八一はどんな思いで見送ったのか、その最後の旅に参加した当時の学生（詩人・金田弘氏）の証言などを交えて制作されたテレビ番組は、視聴者に大きな感銘を与えました。

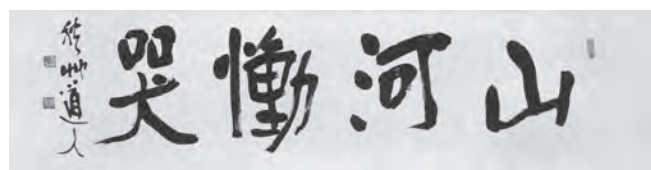
本企画展はこれに応じて戦中戦後に出版された歌集「山光集」、「寒燈集」を中心に、関係作品資料を紹介いたします。歌人の眼を通じて見えてくる悲惨な戦争の現実、そのおろふしに揺れ動く詩人の魂に触れつつ、改めて會津八一の生きた時代を考えていただければ幸いです。



會津八一引率 早稲田大学芸術学専攻研修旅行より  
(奈良飛鳥園前・昭和18年11月13日 撮影・小川晴暁)



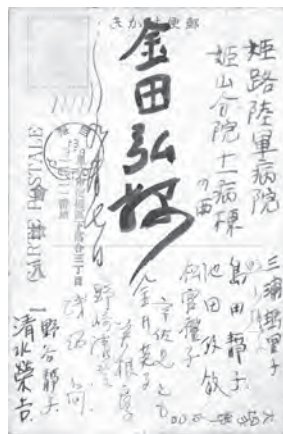
會津八一書「もろあいに」(新潟市會津八一記念館蔵)



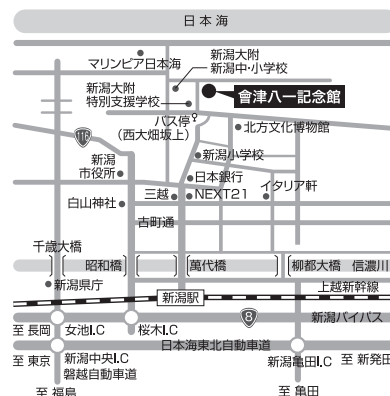
會津八一書「山河慟哭」(昭和23年 新潟県護国神社蔵)



會津八一早稲田大学講義風景  
(学徒出陣前の最終講義・昭和18年  
撮影・関口存彦)



會津八一書「金田弘宛書簡」  
(昭和19年8月7日・姫路文学館蔵)  
※陸軍病院入院中の門下生に  
寄せ書きの見舞状を送る



新潟市 會津八一記念館